

【研究テーマ】 島根半島・宍道湖中海ジオパーク地域における産業の特徴と人々の営み

【氏名】 鳥谷智文

【所属】 松江工業高等専門学校人文科学科

【連絡先メール】 toya@matsue-ct.ac.jp

## はじめに

島根半島・宍道湖中海地域において、はるか昔から人々は、この地域に腰を据えて生活していった。生活する際、その環境下で日々何らかの仕事をしている。当該地域は、現在まで悠久の歴史が紡がれており、古代についての情報が記された「出雲国風土記」をはじめとして、中世、近世、近代、現代の文書群まで人々の生業に関わる貴重な史料群が継続的に残されている。これらの史料群から島根半島・宍道湖中海地域の産業構造について、時系列的にその特徴を追うことができ、その産業に関わる人々が産業にどうかかわってきたのか分析を進めていくことができる。

特に注目に値するのは、乃木公民館に所蔵されている新出の「旧乃木村役場文書」である。そこには明治～大正期における人々の営みに関して記された史料が少なからずあり、現在整理を実施している。

本研究では、「旧乃木村役場文書」をもとに、宍道湖の南に位置する乃木村（現：松江市上乃木町、浜乃木町、乃木福富町、乃白町）を中心に、明治～大正期の産業や人々の営みについてその一端を明らかにする。

## 研究方法

まずは「旧乃木村役場文書」を解読する。その際、必要な先行研究を収集し、史料分析の基礎情報とし、分析を試みる。

史料については、以下の点に留意する。

- ・史料を保存している各施設、個人に依頼し、研究地域の史料閲覧を申請し、撮影を行う。
- ・史料の翻刻、分析の際、人権については十分に注意を払う。

さらに、史料に関連して聞き取り調査も行う。その際に以下の点に留意する。

- ・聞き取りで収集した内容は、人権・個人情報に細心の注意を払う。

史料から分析した内容は、乃木公民館など地域コミュニティ施設などの協力を仰ぎ、講演会・講座あるいはまち歩きなどの企画を利用し、島根半島・宍道湖中海地域の新たな特徴を公開する。

## 結果と考察

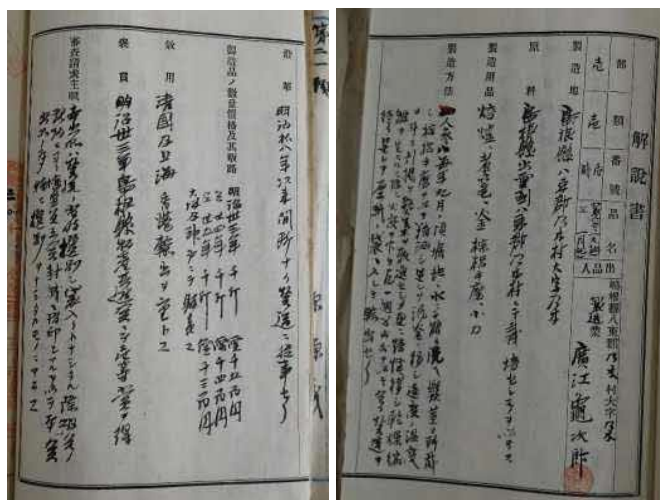
「旧乃木村役場文書」の中で「内国勸業博覧会」に関する史料は、乃木村の産業を知るうえで重要である。内国勸業博覧会に出展される品は、この地域を代表する産物と考えられるからである。

本研究では、明治36年（1903）に開催された第5回内国勸業博覧会に乃木村から出品しようとした産物について明らかにした。第5回内国勸業博覧会は、明治36（1903）年3月1日～7月31日、大阪市天王寺今宮で開催され、最後にして最大の内国勸業博覧会であり、入場者数4,350,693人、出品人130,416人であった。

この博覧会に乃木村から出品しようとした産物の一つに雲州人参（高麗人参）があった。出品に添えたと考えられる「解説書」には雲州人参の栽培、製品について記述があった。史料①にみえるとおおり、製造人は乃木村の廣江龜次郎で、明治18年（1885）から継続して栽培し、「天記」、「月記」という製品を販売した。

年間の数量、価格は、例えば明治33年（1900）では、1000斤（約600g）で1,500円（約3000万円）とある。ちなみに大阪・神戸で販売したとあるが、「効用」として「清国及上海、香港、輸出ヲ重トス」とあり、東アジアへの輸出を想定できる。本製品は、同年に島根県物産共進会で1等賞を受賞している。

また、史料②にみえるように、同じく第5回内国勸業博覧会へ出品しようとした乃木村の目次文蔵による製茶「初緑」、「花緑」の「解説書」も分析した。目次文蔵は、安政2年（1855）から製茶を始め、明治



史料① 「明治卅五年第五回内国勸業博覧会出品一途綴」（乃木公民館所蔵史料38-

元年（1868）には宇治茶の技術を伝習し、同21年（1888）には、島根県茶業組合製茶伝習場へ静岡県の江澤長作を教師に招聘し、同29年（1896）、郡立製茶伝習場を居宅製造場に設けてデングリ揉を伝習し、また、翌年、島根公立製茶伝習場を設けて教師を招聘し、揉切りによる製茶を伝習した。その後私立伝習場も設置した。

このように、製茶の技術を高め、年間5000斤（約3000kg）を生産している。本製品は、明治27年（1894）6月、第1回島根県製（「茶」脱カ）共進会で1等賞金牌を授与され、その後、同30年（1897）5月、関西府県聯合共進会神戸、同年7月、第2回島根県製茶共進会、同33年（1900）3月、八束郡農水産共進会、同年8月、第7回関西府県聯合共進会富山において賞杯を授領している。



史料② 「明治卅五年第五回内国勸業博覧会出品一途綴」（乃木公民館所蔵史料38-

る。製茶を生業とする目次家については、現在その子孫に面会でき、聞き取り調査を始めている。

「旧乃木村役場文書」には、明治33年（1900）開催のパリ万国博覧会に出品しようとした産物についての記載もあり、今後、乃木地区から万博へ出品を目指す人々について、注目をしていきたい。

**【引用文献】**

國 雄行（2005）博覧会の時代—明治政府の博覧会政策—，岩田書院：163-202，229-236. 同（2019）博覧会と明治の日本，吉川弘文館：156-203. 伊藤真実子（2008）明治日本と万国博覧会，吉川弘文館：61-93，94-126 など.

**【共同研究者】** なし